

# 令和8年度 校内研究全体計画

唐津市立成和小学校

## 1 研究主題

基礎基本を土台に、聴き合い、学びを広げる児童の育成  
～教科指導と学級経営を基盤として～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の要請

急速に変化する社会では、知識や技能を習得するだけでなく、多様な他者と協働しながら課題を解決する力や、自ら学び続ける力が求められている。学習指導要領においても、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、資質・能力を育成することが重視されている。そのためには、自分の考えを表現するとともに、相手の考えを受け止め、互いに聴き合いながら学びを深める姿勢が不可欠である。学校教育には、基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるとともに、豊かな人間関係の中で学び合い、自ら学びを広げていく児童を育成することが求められている。

### (2) 本校の児童の実態

本校児童は、明るく素直で、学習にも意欲的に取り組む児童が多い。一方で、自分の考えをもっていても進んで発言することにためらいを感じたり、友達の意見を聞いて学びを深めたりすることに課題が見られる。また、基礎的・基本的な学習内容の定着には個人差があり、学びに自信をもてない児童もいる。基礎基本を確実に身に付ける授業づくりと、安心して考えを伝え合える学級づくりを両輪として進めることで、互いの考えを聴き合い、自分の学びを広げていく児童の育成を目指したい。

### (3) これまでの校内研究

本校ではこれまで、「思考力を育成する指導法の工夫 ～「かく」ことの指導を通して～」を目指し、「楽しむ段階」「分かる段階」「深める段階」の3か年計画に沿って研究を進めてきた。児童が「かく」ことに親しみ、自分の考えを整理し、相手や目的に応じて表現する力の育成に取り組んだことで、自ら考え、言葉で表現しようとする姿が見られるようになってきた。一方で、表現した考えを友達と聴き合い、互いの考えを生かして学びを深めたり広げたりする場面には、さらなる充実が必要であることも明らかとなった。そこで、本研究ではこれまで培ってきた「考え、表現する力」を基盤とし、教科指導と学級経営を一体的に進めながら、互いに聴き合い、学びを広げる児童の育成を目指して研究を推進していく。

### (4) 3ヶ年の計画

そこで本研究では、「学校の基礎基本を土台に、聴き合い、学びを広げる児童の育成」を目指し、3年間の積み重ねを大切にしながら研究を進める。1年目（令和8年度）は「楽しむ段階」と位置付け、「聴く」ことのルールを確認するとともに、特別活動等も生かしながら、互いの話を安心して聴くことや、聴き合うことの良いところを実感できる授業づくり・学級づくりに取り組む。2年目（令和9年度）は「聴くと考えが変わる段階」とし、自分の考えに加えて他者の考えを受け止め、対話を通して学びを深める授業を充実させる。3年目（令和10年度）は「広げる段階」と位置付け、他者の意見をつなぎ、新たな考えを生み出すことのできる児童の育成を目指す。また、教師は3年間の実践を検証・改善し、研究成果を今後の教育活動へとつなげていく。

### 3 研究の目的

変化の激しいこれからの社会では、多様な価値観をもつ人々と協働しながら課題を解決し、新たな価値を創造していく力が求められている。そのためには、自分の考えをもつだけでなく、相手の考えを真摯に聴き、自らの考えを見直したり深めたりしながら学びを広げていくことが重要である。本研究では、学校生活の基礎基本を土台とし、教科指導と学級経営を一体的に充実させることで、互いに聴き合い、学びを広げる児童の育成を目指す。その目的を達成するために、聴き合う力を育む授業づくりや学級づくりの在り方について研究を進め、教師の指導方法の改善と指導力の向上を図る。

### 4 研究組織



### 5 研究の内容

#### (1) 「聴き合う」ことの理論研究と授業実践

- ・「聴く」と「聞く」の違いや、対話的な学びの意義について理論研究を行う。講師を招聘し、「聴き合う」ことが思考の深まりや学びの広がりにつながる指導の在り方について研修を深める。
- ・児童が安心して自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け止めたりできる授業を実践する。(ペア学習やグループ学習、全体交流等の効果的な活用)
- ・児童が互いの考えを聴き合い、自分の考えを見直したり、新たな考えを生み出したりできるような発問や交流の工夫について研究する。
- ・教科指導と学級経営を関連付け、「聴く姿勢」「話し方」「伝え合い方」など学校の基礎基本を整理し、全校で共通実践を図る。
- ・全校授業研究会や学年・グループ授業研究会を計画的に実施し、研究の成果と課題を共有するとともに、授業改善と学級経営の充実につなげる。

#### (2) 児童の活動を支えるための取組

- ・学校生活全体を通して、「話す・聴く」の基礎基本（相手を見て聴く、最後まで聴く、うなずきや反応を示す、相手の考えを受け止めて話す等）の共通指導を行う。
- ・朝の会や帰りの会、スキルタイム等を活用し、「話す・聴く」活動を継続的に取り入れ、安心して

伝え合える学級づくりを推進する。

・語彙や表現を豊かにするために、読書活動や図書館教育を充実させるとともに、多様な考えや表現に触れる機会を設ける。

・家庭学習や自学学習において、自分の考えをまとめたり、学習を振り返ったりする活動を取り入れ、授業での対話につながる力を育成する。

・学級経営を基盤とした支持的風土づくりを進め、一人一人が安心して発言し、互いの考えを認め合える人間関係を育む。

・学年の実態に応じて、ペアトークやグループトーク、学級会活動などを日常的に取り入れ、対話を通して学び合う習慣を育てる。

(3) 推進委員会・学年部会等を通じた取組

・各組織の役割に応じて、研究主題達成に向けて活動を進める。

・研究授業の際には、当日の記録や写真などを分担し、協力して研究を深めていく。

(4) 研究紀要の作成

・1年間の研究の実践や、成果と課題をまとめる。

## 6 研究計画

日時	内容	
4月2日(木)	研究推進委員会	・今年度の研究について ・研究主題の検討
4月3日(金)	第1回校内研究会	・研究主題決定 ・年間計画確認
5月13日(水)	第2回校内研究会	・各グループの目指す児童像、統一して 行う教師の支援・取り組み決定
6月10日(水)	第3回校内研究会	・全校研日程決定
7月1日(水)	第4回校内研究会	・全体計画提案と決定
8月26日(水)	第5回校内研究会	・夏休みに講師(学力向上研修)
9月9日(水)	第6回校内研究会	・6年2組「算数」吉本 まゆみ
10月7日(水)	第7回校内研究会	・4年1組「道徳」出島 愛友里
10月27日(火)	第8回校内研究会	・1年1組「教科未定」野崎 鈴加
12月23日(水)	第9回校内研究会	・1年目の成果と課題
1月27日(水)	第10回校内研究会	・2年目に向けての計画作成
2月中旬		・グループ研究の振り返り、研究のまとめ ・研究冊子の製本データ化
3月上旬		・本年度の反省

☆各グループより全校研1つ

その他の先生もグループ研を行う。指導案は略案でよい。本時案のみ。(A4 1~2枚程度)